



新春のごあいさつ P2
12月定例会・議員賛否 P3
本会議・予算常任委員会 P4
一般質問 P5～12
総務文教常任委員会 P13
市民福祉常任委員会 P14

産業建設常任委員会 P15
臨時議会・表彰・
議会広報編集特別委員
会の新メンバー紹介・
初議会を終えて P16
編集後記

■オリックスに入団した小木田敦也選手(中央)とご両親を
歓迎する市職員と議員の角館高校野球部OBの面々

新春のぐあいさつ



仙北市議会議長 黒沢 龍己

新年あけましておめでとうござい
ます。

市民の皆さまにおかれましては、健
やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶
び申し上げます。

日頃から、市政運営および議会運営に
は多大なるご理解とご協力を賜り厚くお
礼申し上げます。

さて、一昨年から続く新型コロナウイルス
感染症は、未だ終息が見えず皆さま
を不安にさせ、経済活動にも大きく支障
をきたしております。令和4年になりま
したが、新たな変異株で感染力が強いオ
ミクロン株の感染拡大による第6波が懸
念されます。

新型コロナウイルス感染症に対して

は、国や県の支援策とともに仙北市とし
ても、限られた予算ではありますが、皆
さまの不安を少しでも払拭できるように
支援策を打ち出しているところでありま
す。

今後も油断することなく、新しい生活
様式をごく当たり前の生活様式として、
日常的に取り入れることで基本的な感染
予防が実行されます。密を避け、マスク
着用、手洗いなどをしっかりと継続して
この難局を共に乗り越えましょう。

市議会では、本来であれば、市民の皆
さまとの意見交換会等を開催して多くの
ご意見を伺い、市政に反映させるべきと
ころですが、安全安心が最優先であると
考え、非常に残念ではありますが、今年

度の意見交換会を中止としております。
しかしながら、議会としても議論を重ね、
オンラインによるリモートでの意見交換
会の開催や、市の広報、市議会だより等
を活用して市民の皆さまからの意見を伺
う方法を模索しているところでありま
す。

これからの議会は、皆さまの多種多様
な意見を市政に反映させることができる
ように、議員ひとり一人が資質の向上を
図るとともに、市民に寄り添いより身近
な開かれた議会として、市民の皆さまの
負託に応えることで、その責任を果たさ
なければなりません。市政運営の監視役
としての役割を果たすことはもちろん、
皆さまの声をよく聞き、議員間で議論を
重ね市政に提言していくような、考える
市議会を目指していきますので、議会に
対する皆さまのご意見を積極的にお寄せ
ください。

結びに、本年も変わらぬご指導、ご協
力のほど、よろしくお願い申し上げます
とともに、市民の皆さまのご健康とご多
幸を心からご祈念申し上げ、新年のごあ
いさつといたします。

令和4年1月吉日



— 12月定例会 —

令和3年度一般会計補正予算(第7号)・(第8号)・(第9号)

補正額 9億3,207万円を可決 累計225億1,699万円に

一般会計補正予算(第8号) 第三セクター経営改革推進事業費946万円
説明不足により減額修正となる

第6回定例会が11月26日から12月17日まで22日間の会期で開催され、新型コロナ対策費などを含む令和3年度一般会計補正予算(第7号)・(第8号)など、条例関係8件、予算関係10件、指定管理者関係6件の計24件が審議されました。初日に、人事院勧告に伴う給与・報酬等の改定に関する条例改正案と18歳以下の子どもへの給付金や医療関係者の新型コロナワクチン3回目の接種経費が計上された一般会計補正予算(第7号)が可決されました。

一般会計補正予算(第8号)は、予算常任委員会で第三セクター経営改革推進事業費946万円について、「全員協議会での説明前では補正予算の内容が妥当かどうかの判断ができない。」として、総務文教常任委員会から減額修正案が提出され、予算常任委員会において賛成多数で可決されました。

最終日には、当初提案されていた議案の他、追加議案として、「米価下落に伴う緊急支援対策および農業施策の充実を求める意見書」等の議員提出議案5件と、米価下落の農家支援などを盛り込んだ6,271万円の一般会計補正予算(第9号)が提出され意見書5件と補正予算が可決されました。

.....

可決された主な議案・意見書 (予算関係を除く)	◇人事院勧告に伴う給与・報酬等の改定関係条例(計4条例)	◇公の施設の指定管理者の指定について(田沢湖キャンプ場)
	◇仙北市過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例制定について	◇公の施設の指定管理者の指定について(角館中心市街地活性化支援センター)
	◇仙北市基金条例の一部を改正する条例制定について	〔請願〕
	◇仙北市国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について	○水道管整備に関する請願(角館東前郷水道管未整備地区の早期着工)
	◇仙北市水道事業等の設置等に関する条例の一部を改正する条例制定について	〔意見書〕
	◇公の施設の指定管理者の指定について(下延コミュニティセンター・下延農村公園)	○安全・安心の医療・介護・福祉を実現し、国民のいのちと健康を守るための意見書
	◇公の施設の指定管理者の指定について(八割コミュニティセンター)	○精神保健福祉の改善に関する意見書
	◇公の施設の指定管理者の指定について(田沢湖観光情報センター)	○安全・安心の医療・介護・福祉を実現し、国民のいのちと健康を守ることを国に求める意見書
	◇公の施設の指定管理者の指定について(角館駅前広場観光振興施設)	○介護をする人・受ける人がともに大切にされる介護保険制度への転換を求める意見書
		○米価下落に伴う緊急支援対策および農業施策の充実を求める意見書

議決結果/議員賛否 令和3年 第6回 仙北市議会 定例会(招集日:11/26 最終日:12/17)

凡例：賛→賛成、反→反対 退→退席 欠→欠席(議長は法律で定めるケース以外では表決をしないことになっています)

議案番号	会派及び氏名 件 名	議決 月日	議決 結果	蒼生会							く市 ら民				共産党	公明党	無会派
				小林幸悦	真崎寿浩	高橋輝彦	武藤義彦	八柳良太郎	青柳宗五郎	門脇晃幸	稲田修	伊藤邦彦	阿部則比古	荒木田俊一			
議案 第 92 号	令和3年度仙北市一般会計補正予算（第8号）に対する修正案	12/17	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛
	令和3年度仙北市一般会計補正予算（第8号）修正部分を除く原案	12/17	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛

※全会一致で可決された議案については議員賛否を掲載しておりません。

本会議・予算常任委員会 12月定例会で審議された補正予算

令和3年度一般会計補正予算 主な内容

子育て世帯への臨時特別給付金給付事業	1億4,230万円	18歳以下の子どもへの10万円支給のうち5万円支給分
3回目のコロナワクチン接種事業	7,820万円	1月中旬から医療関係者、3月中旬から一般市民の接種開始
米価下落による農家支援事業	4,327万円	30a以上主食用米を作付けした農家に10a当たり1,800円支給
タクシーと代行業者支援事業	90万円	タクシー及び代行業者共に1台5万円を支給
生活応援灯油助成事業	1,854万円	市民税非課税の70歳以上世帯、ひとり親世帯、障害者世帯等に1世帯当たり6,000円を支給
ふるさと仙北応援基金積立金	3億円	ふるさと納税の寄付額を3億円増額することによる積立金
ふるさと納税ふるさと便事業費	1億8,320万円	ふるさと納税の寄付額増額による返礼品や送料の経費の増額
第三セクター経営改革推進事業費	946万円	三セク4社の統合に向けた経営コンサルへの委託料
介護保険特別会計繰出金	5,357万円	にしき園における利用者減少による一般会計からの繰出金

本会議・予算委員会での質疑

第三セクター4社の統合という一大事にまだ詳しい説明がない

質問 第三セクター4社の合併を目指した今後の経費と察するが、946万円の内訳について伺う。

答弁 現在、経営コンサルには、現状分析と経営改善に向けた事業計画の策定を令和4年1月20日までの契約で委託している。今回の補正予算は、今後の合併に向けた実施支援として、各会社や株主、債権者への合併説明の支援、株式関係の書類作成支援、統廃合の工程表や行動計画の策定などについて新たに委託する経費である。

質問 今後の三セクの経営改善については、議会全員協議会で説明するとしているが、その前にこの補正予算を審議するとは順番が逆ではないか。また、何故繰越明許費としなければいけないのか。

答弁 現在契約している現状分析と経営改善に向けた事業計画について、12月14日に議会全員協議会で説明する予定であるが、今後の三セクの一本化に向けた実施支援という第2ステップの経営コンサル契約は、議会全員協議会とは別物であると考えていたことを反省している。第1ステップの契約が満了する令和4年1月下旬から合併の目途としている令和4年7月までの継続した契約とするために繰越明許費としたものである。

にしき園への一般会計からの繰出金が昨年を大幅に上回るの何故か

質問 一般会計からにしき園への5,357万円の繰出金は、にしき園での利用者の減少が要因との説明があったが、にしき園は入所待ちが多く、空きが出て直ぐに満室になると認識していたが、5,000万円を超える歳入減少の状況について伺う。

答弁 にしき園の歳入の当初予算は、年間平均利用率を95%としていたが、昨年度の90.1%をさらに下回る88.3%に大きく減少する見込みである。在宅復帰に回復する退所者が多く、手続きに2週間程要する入所者が退所者に追いつかないことが利用率を低下させている原因である。改善策として、入所を希望する方が早くスムーズに入所できるための手続きのスピードアップを図り、一人でも多く1日でも早く入所できるように現場の受入れ体制強化を図り、今まで以上に医療、介護、事務方の各部門が連携して、利用率を確実に向上させる努力をしていく。

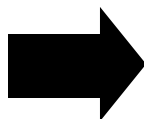
第三セクター経営改革推進事業費 946万円

総務文教常任委員会からの減額修正案を
賛成多数で可決

12月定例会の補正予算に、第三セクターの経営改革推進事業費として、三セクの経営改善に向けた最終報告書の作成後も経営コンサル委託を継続する経費が計上されました。

総務文教常任委員会の審査を経て、予算常任委員会に審査内容が報告されましたが、今後の方向性が示される全員協議会前の審査であるため、この補正予算の妥当性を判断しかねるとして、事業費と関連する歳入を全額削除する修正案が提出され、予算常任委員会ではこれを賛成多数で可決しています。

今後は、議会全員協議会での説明後に再びこの予算が提案され、改めて審査される予定です。



議会
全員
協議
会
で
三
セ
ク
経
営
改
革
事
業
費
が
再
提
案

1月21日

第1回臨時議会で再度提案

議会全員協議会での説明後に再度提案される

12月14日と1月14日に議会全員協議会が開催され、現契約の経営コンサルが作成した三セク経営改善についての最終報告書による説明があり、三セクの黒字経営に向けて、4社統合を推進するとの方針が示されました。1月21日の臨時議会で再度、「第三セクター経営改革推進事業費」が提案され、新たに令和4年7月の4社の統合に向けての実務的な経営コンサルを委託するものであることが説明されました。

臨時市議会では慎重審査の結果、賛成多数で可決されました。（詳細については16ページに掲載）

行政サービスの本質は人と人との対話が大切

蒼生会 小林 幸悦 議員



市長 対話の重要性については全く同感である



■人と人との対話を重視する窓口業務（角館庁舎）

デジタル技術の活用だけでなく人と人の対話も大事に

質問 市長は幸福度ナンバールンを目指し、4つの戦略の中にデジタル技術（スマホ）を活用した市政の透明化・対話の加速とあるが、高齢者や障害をお持ちの方にとっては対応できない方もいる。行政サービスの本質は人と人との対話を大切と思うがどうか。

答弁 行政サービスの基本として、人と人との対話の重要性については全くその通りだと思ふ。市役所職員が市民との窓口対応や、個別に現場や自宅訪問等で相談や説明を原則としている現状もある。しかし、ここ二年間はコロナ感染症の影響により、密を避ける行動や、不要不急の外出を控える等の制限を余儀なくされている等の事実である。行政がどのような状況や事態になってもサービスを低下させないために、人と人との対話と並行してSNS等、デジタル技術を活用した非接触型のコミュニケーションの強化も重要である。現状では、高齢者や障害をお持ちの方向けの情報発信等の対応が不足していると認識している。そのため、デジタル人材講座を12月・1月に開催し、継続的に進めしつかりと成果に結びつけていく。令和4年度にはLINEによる相談機能の強化も重点項目としている。

財政悪化による歳出抑制は慎重に

質問 市の財政が厳しく、来年度予算は歳出をかなり抑えた予算になると思うが、補助

金や助成金の見直しによる削減は、モチベーションが下がりこれまでの活動がおろそかになる心配がある。納得のいく説明で理解を得る様、慎重な対応が必要と思うがどうか。

答弁 本市の財政状況は、普通交付税が合併算定替終了に伴い、縮減前の平成27年度と比べ令和3年度は7億円ほど減少している。コロナの影響が長期化し、苦しんでいる中小企業への支援等、真に必要な事業の実施に努めるが、同時に財政構造の健全化にも取り組む。そのために既存事業の評価制度を再構築し、政策効果の低い事業の廃止・縮減等歳出削減を図る。令和3年度当初予算でも補助金を10%削減したが、団体と協議し納得頂いて実施している。当初予算編成では補助金・助成金の見直しも行うが、関係団体等と充分協議し理解を得られる様に進める。

経営規模の小さい農家への支援を求める

質問 仙北市では圃場整備が進んでいる一方、圃場整備が難しい地域も多い。経営規模が小さくても地域農業を維持

している農家に対する支援は出来ないか。

答弁 農家の負担軽減支援策としては、産地交付金等の仕組みを変えながら、重点品目への取り組みに手厚い支援を行っていく。また、園芸や畜産といった複合経営を目指す農業者には、農業夢プラン型戦略作物等生産基盤拡大事業や、元気な中山間資源を生かす生産体制整備事業等、経営規模の拡大や、経営の多角化を図るため必要な農業用機械、施設等の整備に支援を実施する。また、これらの事業要件に該当しない農業者に対しては、単独事業の仙北市畑作物園芸等振興事業で、畑作物や施設園芸等の新規作付や規模拡大に取組む農業者等へ、農業機械の取得や初期投資の負担軽減を図る支援も行う。さらに意欲ある農業者には、性別や専業・兼業の別、経営規模の大小、営農類型に関わらず、公的支援や補償を受けやすいよう仕組みを整え、農業生産活動を通じて所得向上を目指せるよう応援する。

（門脇晃幸記）

疲弊した市内産業への支援策は

蒼生会 武藤義彦 議員

市長

消費活動の活発化、販路開拓、商品化への取り組み等である

市内産業への支援策は

質問 コロナで疲弊した市内産業にどのような支援策を検討しているか。

答弁 市内消費活動の活発化、起業や事業継続新分野開拓等へ挑戦、販路開拓、商品化への取り組み等である。3年後に実施効果を確認し、事業者の声を聞き、大胆な施策も必要と考えている。

質問 あきたこまち新米の取引価格が12%の下落とのことだが、市独自の支援策は考えているか。

答弁 平成26年度にも同様の米価下落があり、当時、米価と水稻種子への緊急支援補助金等の支援を実施した。今回は、議会最終日に追加提案を検討している。

質問 市内で該当にならない農家はどのくらいか。

答弁 (農林部長) ならし対策・収入保険非加入者は、779件である。

質問 小正月行事の上桧木内紙風船上げや角館の火振りかまくら等が、深刻な後継者不足である。その対応策を伺う。



■後継者育成が課題の角館の火振りかまくら

答弁 紙風船を作る技術の継承や作り手不足で、美術大の協力もコロナ禍で難しい。火振りかまくらは、後継者育成、炭俵の確保が非常に厳しく、イベントは行えず、2月14日の町内行事に観光客も参加する状況である。地域の商店等が体験料を頂き、観光客と交流しながら盛り上げていく事が、新たな後継者を生み出すきっかけとなると考える。

歳出抑制と既存事業について

質問 市長は市政報告で、全ての既存事業を見直し歳出削減に取り組むとしているが、何からメスを入れるのか。

答弁 歳出で全ての既存事業をゼロベースで見直し、市単独事業を中心にメスを入れる。補助金・助成金、人件費、公債費の削減に努め、健全な財政構造の実現を図る「幸福度ナンバワンのまち」を目指し、真に必要な施策を厳選し実施する。

質問 第三セクター4社の一本化について伺う。

①各施設の温泉・宿泊・食堂等の縮小規模は。②委託料は減額となるのか、また、既存の建物は現状のままか。③雇用形態はどうなるのか。④借入金、市が肩代わりして新会社の償還が円滑に進むのか。

答弁 ①温泉部門は縮小せずアルパこまくさは、来年4月から市直営で営業する。宿泊部門は、集約を検討。食堂部門は、メニューや人員の見直し、カフェ形態への転換により存続。その他の事業は、サービスを維持し、会社の黒字化

へ事業再編を進める。②減額しない。令和5年度以降に精査する。建物は有効な活用施策が必要。③全ての雇用契約も継承される。④黒字化、償還していける財務の強化が一本化の目的である。再建へ全力を尽くす。

質問 地域運営体事業は継続するのか。

答弁 10年が経過し、事業の制度設計を見直す時期が来ている。投下金額に見合う効果を検証し、市民の喜び、幸せに繋がっているのかを見極め、より良い形で継続していく。

黒沢工業団地について

質問 ハレタス田沢湖の企業誘致実現を目指すのか。食品以外の企業誘致を検討した事があったのか。

答弁 食物工場の計画が策定できない状況である。現在、工業団地への進出意向の企業はない。多様な場面で企業誘致活動を広げ、働く場の確保に努めてまいりたい。個人のネットワークも含め、情報収集を続けていきたい。

(熊谷一夫記)

門脇市政の継承は慎重に

市民クラブ 阿部則比古 議員



市長

しっかりと検証し、良いところは受け継ぎ、
反省すべき点は反省し市政を担う

海外旅行客の誘致に軸足を置くのか

質問 門脇市政を継承するとの考えのようだが、観光偏重の産業全体から見れば甚だバランスを欠いた政策が多かったように思う。

答弁 観光産業の取り組みで、これまでと同様に海外旅行客誘客に自治体が軸足を置くのは賢明な方策とは思わないがどうか。

一方、身近に外国人がいる環境は将来を担う子供たちにとっても有益なことと考える。門脇市政の継承についてはしっかりと検証し、良いところは受け継ぎ、反省すべき点は反省した上で市政を担う。

水稲単作からの脱却の農政を

質問 中山間地に位置する本市の目指す農政は、水稲に偏重する政策から脱却する方策が人口減少を緩和し、グリー

ンツーリズムに代表されるような観光産業にも資すると思うがどうか。また、小規模農家の育成も大切と思うがどうか。

答弁 本市の農業経営の形態は、稲単作経営から複合経営と転換がはかられ、果樹や花卉の複合化の進展も増え脱却が確実に進んできている。より一層の取り組みを強化する。

グリーンツーリズムは、仙北市ブランドを強化する上で大切なツールであり、農家の複合経営の一端を担うものである。また、誰ひとり取り残さないSDGsの考えから小規模農家の声もしっかり伺っていききたい。

林業を活性化する好機、どう取り組むのか

質問 世界ではカーボンニュートラルが喫緊の課題として、化石燃料で暖をとることが罪悪と考えられる時代がすぐそこに来ている。本市林業の絶好の好機と思われるがどのように捉えているのか。

答弁 ウッドショックと呼ばれるほど木材製品の価格が高騰し、林業を含む木材業界に大きなチャンスに向かってい

る。木材利用の推進・普及も含め、森林環境譲与税を財源とする事業を拡充し、林業産業において市民が幅広く恩恵を受けられる体制づくりを進める。

質問 本市の特別会計は、全て赤字という状況下にあり、一般会計を蝕み非常に硬直した財政下にある。特に圧迫し続けるのが病院会計であり、幾度か改革する機会があったが機を逸してきた。何か展望があるのか考えを伺いたい。

答弁 国から特別交付税の見直しや、不採算地区にある中核的な自治体病院に対する特別交付金が創設されている。

こうした財政措置が拡充されたとはいえ、病院独自の経営改善を試みている。経営診断の指摘事項の改善を進め、一般会計からの負担軽減を図ることが重要であると認識している。

(荒木田 俊一 記)



■脱炭素社会で当市の林業・木材業にチャンスは来るのか

灯油購入費助成は 後日口座振込みではなく購入券を

日本共産党 平岡 裕子 議員



市長

購入券は準備に時間を要するため口座振込みとする

コロナ禍における低所得者の生活支援を

質問 市政報告における灯油暖房費支援の対象者や助成額、申請手続きなどの概要について伺う。

答弁 対象者は、市民税が非課税の①高齢者世帯②ひとり親世帯③障害者世帯④生活保護受給者世帯及び⑤市民税の減免申請が承認された世帯であり、2,937世帯を見込んでいます。助成額は、約一ヶ月相当分の助成を検討中である。申請手続きは、広報や市のHPなどで周知する。領収書を添付した申請書の提出を受けて、口座に振込む方式である。本議会最終日に補正予算を追加提案する。

質問 この事業は、灯油価格に基準を設定するなどして継続事業にできないか。

答弁 今後助成を実施する判断基準として、例えば1ℓ100円を超えた場合に判断できるように基準を設定したいと考えている。

児童生徒の自転車通学の安全・安心の確保について

質問 令和4年4月1日か

ら、県条例で自転車の保険加入が義務化されることについての保護者への周知や理解は得られているのか。また、万一の事故発生時の対応はどうしているのか。

答弁 (教育長) 12月の校長会を通じて、パンフレットを配付するなどして、周知・理解を図りたい。事故発生時は、各学校で作成しているマニュアルに基づき対応している。

質問 児童生徒の事故等の備えに、市の負担で災害共済に加入しているが、自転車事故などの加害者になった場合には対象外である。自転車通学等で児童生徒が加害者になった場合にも対応できる保険に、市の負担で加入するべきではないか。

答弁 (教育長) 現在、すべての小・中学校のPTAが「PTA安全互助会」の保険に加入しており、事故等における加害者の損害賠償にも対応している。

健康なからだづくり応援について

質問 令和元年度まで実施した「はり・きゅう等施術費助成制度」は、50歳以上の市民

が1回1,000円で12回まで利用できたが、令和2年度から廃止された。廃止の理由と令和4年度には復活できないか伺う。

答弁 利用実績が市民全体の1%にも満たない状況であり、市民のニーズや費用対効果が低いと判断し廃止した。令和4年度の復活については、これまでの利用実績と厳しい財政状況により難しいと考えている。

「庁舎内で職員以外はお客さま」精神の徹底を

質問 田口市長の職員への就任あいさつで、「庁舎内で職員以外はお客さま」という言葉が強く心に残っている。新角館庁舎に移転して1年になるが、移転当初は窓口まで丁寧に案内していたが、最近、私が見かけた時には「それは○番の窓口です。」と口頭案内のみで、ご年配の女性は困惑していた。利用



■最大需要期に高騰が続く灯油価格

者に応じた臨機応変な接客姿勢が望まれる。

答弁 来庁された市民を不安にさせ、心からお詫び申し上げる。「庁舎内で職員以外はお客さま」の精神を全職員に浸透させ、挨拶などのお声掛けを徹底し、丁寧な案内と、迷っているご年配の方などを見かけたら、窓口まで案内するように心掛けていく。私自身が、日本一挨拶のいい市役所を目指そうと公言しており、率先垂範しているところである。

(青柳 宗五郎 記)

高校卒業まで医療費の無料化は、 図られるのか

市民クラブ 小木田 隆 議員

市長 令和4年度から実施したい

高校卒業までの医療費の無料化実現について

質問 先の議会で、一般質問において前市長は、新年度に実施すると答弁しているが、田口市長の考えを問う。

答弁 18歳までの医療費の無料化と課税世帯への窓口負担なしの要望は多く、幸福度ナンバーワンの施策の一つとして、令和4年度から実施に向け予算化したい。

道の駅開設について

質問 県内25市町村で、道の駅がないのは、仙北市だけである。どこへ行っても農産物の直売所があり賑わっている。農家の方がたが規格外の野菜を出店できる場所があると、収入が得られ幸福度につながるのではないか。見解を伺う。

答弁 平成28年9月定例議会に、道の駅開設の請願書が提出され、議会で採択されている。道の駅、直売施設は、観光振興や交流人口の増加などの経済好循環の可能性はあるが、年間を通じて営業を可能とするため、野菜や加工品などの品揃えや技術の確立、場

所の選定、誰が運営するのかなどの課題がある。調査、分析を今後も行っていく。

質問 諸々の事を考えればなかなか進まない。野菜直売所だけでもいい。簡単な物から進めていくことにより波及効果も出てくるのではないか。

答弁 仙北市商工会副会長時代に、道の駅について商工会会員等で話し合ったことがある。一年を通じた農作物の提供が、ネックになると意見が出た。地元の農家の皆様方の意向も聞いて、検討していきたい。

不用品公有財産処分について

質問 不用品公有財産は、管理に経費が掛かる。財政運営健全化のためにも売却を考えるべきと思うが、見解を伺う。

答弁 令和2年度個別施設計画を策定し、公共施設の処分等を年次計画で進め、遊休財産の処分等も具体化できるようにする。遊休土地等の在り方の検討、処分可能地等の洗い出しなどは、副市長をはじめとする関係職員で検討したい。

ムを立ち上げ準備が整ったところから出来るだけ早期に実現するよう取り組む。

質問 民間の感覚で、不用品公有財産対応を伺う。

答弁 仙北市の財政状況からすれば、公共財産を手放しても財政を立て直している。本市にとって有利な売却先を見つけられるように公売を進めて参りたい。

(平岡 裕子 記)



■道の駅構想は？！



■公売を急ぐ旧中町庁舎

統合しても三セクとして存続できるか

市民クラブ 荒木田 俊一 議員

市長 永続的に運営できる仕組み、体制づくりを行う

**幸福度No.1をめざす
中で具体的な施策は**

質問 安心して働ける仕事（雇用）が確保できる地域をつくる具体策は。

答弁 仙北市では、新規雇用者、一般就職者、雇用企業主等への様々な雇用対策を講じているが、若い世代の県外流出や高齢化による労働力不足は依然として課題である。

雇用施策は、労働状況に効果をもたらすタイムリーな展開を基本に進めたいが、効果が表れないと判断した場合、他団体との事例等を参考にしながら、大胆な施策の検討も必要と考える。

質問 企業誘致対策は、他の自治体と比較しても遅れており、成果も出ていないが今後の企業誘致をどう進めるか。

答弁 ハード・ソフト両面で企業誘致の環境整備を進めてきたが、成果には至っていない。今後、成果を重視した実施計画を立て達成できるように務める。

私も自分のネットワークを含めて何とか実現に向けて努力し、地域の市民が、喜んでこの会社なら働いてみたいというような企業誘致を目指したい。

質問 積極的な結婚支援が必要と思うが。

答弁 様々な独身男女の出会いイベントに補助等をしてきたが成果が上がっていない。マスコミ等でも取り上げられている、女性の経済的な自立等によって、結婚観が変化している。

デリケートな問題ではあるが、結婚の出会いという前提ではなく、スポーツや登山といった趣味を通じた出会いの環境づくりも必要と思う。

急激な米価下落等混沌とする農業政策について

質問 市内農家で4億円を超える収入減と見込まれるが、市内経済に与える影響をどう捉えているか。また、どのような農家支援を考えているのか。

答弁 米価下落により稲作農家の経営は非常に厳しい状況にあり、市内経済に与える影響も大きいものと捉えている。米価下落に対する支援は、議会最終日の追加提案を検討している。

質問 受給と価格安定に向け水田活用直接交付金が十分見込まれるか。

答弁 県市長会でも令和4年度予算確保への要望書を提出している。農水省では、交付金による支払いを安定的に実施するとして、来年度の予算概算要求額は今年度より270億円増となっている。

三セク企業の統合について

質問 運転資金の個人名での借り入れはないのか、あるとすればどう対処するのか。

答弁 個人名での借り入れは

ないが、会社の代表が連帯保証人になっている。連帯保証を外すため、債務を一旦市が肩代わりし、統合後に会社が市に返還するスキームを検討している。

質問 統合しても三セクとして存続できるのか。

答弁 大規模な経営改善と組織再編により、永続的に運営できる仕組み、体制づくりを行い、さらなる住民サービスの向上につなげたい。

（武藤義彦記）



■経営改善が求められる第三セクター

今年度の収入激減事業者の経済支援を求める

蒼生会 高橋輝彦 議員



市長

農業・タクシー・代行事業者の支援策を 最終日に追加提案する

新型コロナウイルスから市民 の命を守る取り組み について

質問 5歳から11歳のワクチン接種について、日本では重症化していないので、あまり急がず慎重に検討すべきではないか。

答弁 現在、国からの具体的な指示はないが、接種の通達があれば、保護者の皆さまが戸惑うことのないように準備を進める。

質問 仙北市での3回目のワクチン接種は、3月中旬からとしているが、2回目終了から10ヶ月半も経過する方々もいるが大丈夫か。また、今後も定期的なワクチン接種が必要なのか。

答弁 2回目接種後は、時間の経過と共に抗体が徐々に低下するが、重症化の予防効果は高く保たれているとの報告がある。4回目以降のワクチン情報はまだない。

質問 国は、3回目のワクチンはモデルナ製を推奨している。市民は1・2回目と同じファイザー製を希望しているが、希望は叶うのか。また、かかりつけ医での個別接種は考えていないか。

答弁 モデルナ製は、3回目

のワクチンとしてまだ薬事承認申請中であり、仙北市は現在のところ、3回目もファイザー製を使用する。また、3回目も集団接種で計画しており、かかりつけ医での個別接種は考えていない。

コロナ禍による収入 激減事業者の支援を

質問 今年度、コロナ禍により米価が大幅に下落した農家と代行事業者に対する仙北市独自の支援を求める。

答弁 本定例会の最終日に、農家、代行事業者、タクシー会社等を支援する補正予算を追加提案する。(最終日に農家に10a当たり1,800円、タクシー及び代行事業者に1台5万円の支給が決定した。)

安心して暮らせて将来 に持続可能な仙北市 を目指して

質問 昨年6月の一般質問に対し前教育長が答弁し、今年度開催するとして、白岩小学校の適正配置を検討する意見交換会がまだ未開催であるが、方針が変更されたのか。

答弁 (教育長) 仙北市の出生数の減少や校舎の劣化が想定を大幅に上回る現状があり、

小・中学校の適正配置については、白岩地区のみならず、市全体で考えていく課題と認識した。

この現状を市内全部のPTAや校区ごとの意見交換会で市民に説明し、理解を得たうえでこれから小・中学校の在り方を市民の方々と共に、市全体でじっくり時間をかけて考えていくことにしたい。

質問 白岩小学校の数箇所の雨漏りの修繕を検討しているか。

答弁 (教育長) 小・中学校から雨漏りも含めて多くの修繕要望があり、安全面から優先順位を付けて対応している。白岩小学校の雨漏りは来年度に実施設計を行う予定である。

質問 私のこれまでの一般質問の懸案事項である①角館駅の東西自由通路整備事業及び②落合野球場整備事業についての市長

の考えは。

答弁 どちらも前市長から引継ぎを受けている。①は、内川橋改修完了後に、計画の見直しも含めて十分な検討が必要と考えている。

②は新過疎法での事業採択を目指しているが、今すぐに一般財源での事業実施は困難である。新過疎債の他にも財政の目処がつくようであれば実施に向けて検討したい。

(高橋輝彦記)



■ 6箇所の雨漏りが確認されている白岩小学校のガラス屋根

幸福度全国一位を目指すための 基本となるものは何か

蒼生会 眞崎 寿浩 議員

市長

観光と農業の結びつきを強くし 安全安心なまちづくりをしていく

安心安全なまちづくりについて

質問 「ずっと暮らし続けた」と感じられる地域をつくるためには、防災減災の意識を高め、住民に対し安心感が持てる施策が必要と考えるが、災害に強いまちづくりのための考えを問う。

答弁 最新版のハザードマップが出来る上がり、配送に向け



■ 2月には全世帯に配付される最新版ハザードマップ

観光について

質問 住民にとっての観光の

準備を進めており、令和4年2月10日頃まで各世帯にお届けする。それを踏まえ、日々の防災意識を高め3年前より実施している各地区の防災訓練を継続していくことで、災害被害を軽減させるための連携、組織率を高めていく。

あり方と観光に対する意識改革の必要性は。

答弁 新型コロナウイルス感染症、さらに人口減少も相まって旅の形は変化している中、これまでの一般観光からいかに付加価値を高めるかが必要となる。11月4日付で一般社団法人田沢湖・角館観光協会が地域DMO、観光地域づくり法人に登録されたことで、今後はDMOと連携し、市民の意識の醸成を図り、その上でDMOを軸としてDXなどの推進を進め、観光施策を戦略的に行っていく。また、**質問** 農業との結びつきを強化する具体的な考えはあるのか。

答弁 仙北市でも以前から教育旅行誘致や農家民宿の滞在と旅館・ホテル泊をセットとした旅行商品の企画など、大型ホテルや観光施設と協力しながら誘客に取り組んでいる。

また、五感楽農事業の一環で本年実施した新幹線荷物輸送もその一つである。これは、農家民宿でお客様に提供するはずだった地場産品を東京駅へ輸送する事業で、JR東日本秋田支社、地域DMO、一般社団法人田沢湖・角館観光

協会との三者連携協定により実現した。直接的な宣伝もできない中において、仙北市を訪問するきっかけになればという思いで実施した取り組みである。農山村地域と乳頭温泉郷や角館武家屋敷通りなどの観光ポイントを組み合わせた、コロナ禍で求められるストレスフリーな旅行の提案をするなど、今後できるだけ多くの市民と来訪者を結びつけられるような場面を提供していく。

質問 抱返り周辺の通年観光、未整備区間、自然エネルギーの有効性をアピールした拠点づくりについて問う。

答弁 通年観光に関しては、例年11月下旬からゴールデンウィーク前までの間は、該当区間が大変危険であるがゆえの閉鎖となる。

未整備区間について現在着工予定は無いが、夏瀬ダムまで整備となるよう引き続き県に要望していく。

神代発電所と抱返り遊歩道の散策と組み合わせ、教育旅行の受け入れを関係者と調整しており、今後の有効性アピールへ繋げていく。

(澤田雅亮記)

総務文教常任委員会

第三セクター経営改革推進事業費の修正案を提出

12月定例会の総務文教常任委員会では、過疎法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例改正や公の施設の指定管理者の指定2件、令和3年度一般会計補正予算等について審査されました。

■総務部・教育委員会関係の一般会計補正予算 主な内容

公共施設マネジメント事業費	578万円	田沢湖庁舎空調設備（冷暖房）設置に係る実施設計業務
ふるさと仙北応援基金積立金	3億円	ふるさと納税寄附金の増額見込に伴う積立金
ふるさと納税ふるさと便事業費	1億8,320万円	ふるさと納税寄附金の増額見込みに伴う関係経費
第三セクター経営改革推進事業費	946万円	市内三セク4社の新設合併に向けた経営コンサルによる支援経費
修学旅行費支援事業費補助金	109万円	コロナ禍による修学旅行キャンセル料等への補助金
タクシー事業者及び運転代行業支援事業費	90万円	タクシー及び運転代行業者共に1台5万円を支給

ここが知りたい 議論のポイント

一般会計補正予算の主な質疑

ふるさと仙北応援基金積立金とふるさと仙北応援寄附金について

質問 令和2年度は15億円の予算を見込み、4千万円程の収入未済額が出たが理由は何か。また、今年も同額計上するのは如何なものか。

答弁 昨年度は、14億5,800万円、4千万円程の収入未済額が出ている。1月から3月期では昨年12月があまりにも好調で、令和2年度産米が不足し、予算があっても米がないということで4千万円をストップした。予算の積算根拠は、11月、12月、1月を昨年度並みとし、2月、3月については、令和3年度産米の確保に動いて2倍の寄付があるのとみて積算している。

第三セクター経営改革推進事業費について

質問 コンサル会社に市としての問題提起をしなければ、中身は何も変わらないのではないか。

答弁 三セクに関しては以前もコンサルを入れて調査したが、

4社の猛反発を受け実施に至らなかった。今回は、4社の代表それぞれがこの機会を逃さず一本化で行く認識を持っている。コンサルには市として黒字になる可能性はどうかという形で提案している。将来的には黒字経営となり、貸付金を返済し、一時休止した部分を営業努力により再開できるようにしたいと話している。

質問 民間への打診はしたのか。また、宿泊についてはどうするのか。

答弁 とにかく統合することによって4人のトップが1人になり市の統制もとれる。市が改革に入ることで、黒字になるまでの部分をしっかりとフォローして、進捗を見ながら随時、協働で協議しながら進めたい。宿泊については、クリオンは湯治客もいるが、利用率を考えると継続して運営できる状況ではない。今回は一時休止となるが、これからの営業努力によっては再開もあり得る。

質問 三セクの方向性を後日の全員協議会で説明するとしているが、その前に予算審査するのは無理がある。本来は全員協議会の後に追加提案するべきではないか。

答弁 市政報告等で一本化する方向性を示し、担当委員会に説

明後に全員協議会という形でやる。最終日の追加提案という方法もあったと思われる。



■4社が統合となる三セク施設

第三セクター経営改革推進事業費 (経営コンサル委託料)946万円

～説明不足により 全会一致で減額修正案を提出～

総務文教常任委員会では、第三セクター経営改革推進事業費について、今後の方向性が示される全員協議会の前では、補正予算の妥当性を判断しかねるとして、議案第92号「令和3年度仙北市一般会計補正予算（第8号）」について、予算常任委員会へ修正案を提出しました。

※第三セクター経営改革推進事業費 946万円と関連する歳入を全額削除した修正案

市民福祉常任委員会

特別会計介護施設にしき園

一般会計から5,357万円繰入れ

12月定例会の市民福祉常任委員会では、国民健康保険条例の改正や介護保険特別会計補正予算及び令和3年度一般会計補正予算などが審査されました。一般市民は3月中旬から接種が始まります。

市民福祉部関係の補正予算 主な内容

多世代交流施設（山鳩館）一般総務費	79万円	体育館と技術室の蛍光灯安定器にPCB（ポリ塩化ビフェニル）が含有されているものとして調査、撤去する費用
保育園入所待機児童等支援事業費補助金	50万円	10月1日から待機児童1名追加に伴う託児料
保健事業総務費	404万円	検診結果をマイナーポータルで確認できるように国が進めるシステム改修にかかる費用
新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費	5,062万円	3回目ワクチン接種に係る事務的費用
新型コロナウイルスワクチン接種対策事業費	1,712万円	3回目接種（注射）に係る費用
介護保険特別会計繰出金	5,357万円	老人保健施設にしき園の利用者減少によるサービス収入減収による補てん費用

令和3年度仙北市介護保険特別会計補正予算(第1号)の質疑から

にしき園での利用者の減少により、施設介護サービス費などの収入が減少し一般会計から5,357万円も繰入れすることについて

質問 にしき園の経営改善は、どのように図られているか。

答弁 6月に介護員6名、理学療法士1名の採用がなかった。質の高いサービスを提供することが可能となった。医療、介護、看護などと連携を図り、空室発生後のスピーディーな入所事務手続きを心掛けている。

質問 抜本的な解決策は。

答弁 令和元年度に、にしき園の在り方検討会が開かれた。3年間を目途にして当面、市直営で運営することとした。令和4年度が最終年度になる。広域的な介護保健施設であることも加味し検討する場が必要になってくる。



■ガラス越しの家族との面会
（入所率アップを望むにしき園）

ここが知りたい 議論のポイント

一般会計補正予算の主な質疑

多世代交流施設（山鳩館）の蛍光灯安定器調査及び撤去費用について

質問 費用は、市の負担になるのか。

答弁 設置者である市の負担になる。建設の時期から見て、PCBは含有されているものとして、足場を作っ

て調査、撤去する。個数を確認し撤去した後、一時保管し来年度に処分する。

保健事業総務費について

質問 マイナポータルでは、個人のみが情報を得られ、他者が情報を見られるものではないと理解してよいのか。

答弁 これまで、市町村ごとに検診結果のまとめ方が様々であったが、国が統一した様式にまとめ、いつでも、どこでも、マイナポータルにアクセスし自分のパスワードを入力して、自分

の検診結果を見ることができ。あくまでも、自分の情報を得るためのものである。

保育園入所待機児童等支援事業費補助金について

質問 託児施設はどこか。保育料について親の一次的負担はないのか。

答弁 子育てサポート「はっぴい・ママ」である。施設の代表の方が代理受領となるので親の負担はない。

産業建設常任委員会

「仙北市主食用米作付農家支援事業費」 10a 当たり1,800円支給なる！

12月定例会の産業建設常任委員会では主に令和3年度一般会計補正予算や仙北市基金条例の一部を改正する条例制定他、温泉事業会計、水道事業会計、下水道事業会計それぞれの補正予算等について審査されました。

■観光文化スポーツ部・農林商工部関係の一般会計補正予算 主な内容

仙北市主食用米作付農家支援事業費	4,326万円	米価下落に伴う種子等購入費補助
スキルアップ事業費補助金	20万円	勤労者・雇用者対策事業費補助、職業訓練事業費補助
地域で学べ！農業技術研修費補助金	▲90万円	研修予定者が辞退したことによる減額
農地集積加速化基盤整備事業費補助金	3,231万円	農地集積率達成補助金
地域おこし企業人交流プログラム事業費	▲2,800万円	事業中止に伴い補助金の減額
全日本マスターズスキー選手権秋田田沢湖大会補助金	140万円	大会への補助金

ここが知りたい 議論のポイント

一般会計補正予算の主な質疑

地域で学べ！農業技術 研修費について

質問 減額補正の理由と年度途中の申し込みは可能か。

答弁 研修受講については年度途中の申し込みによる受講は可能である。今補正予算の減額は今年度に入る前に希望し予定していた人が辞退したことに伴う減額補正である。

地域おこし企業人交流 プログラム事業について

質問 事業費負担金の減額に伴う事業の進め方について伺う。

答弁 国が実施する地域おこし企業人交流プログラムにより、10月から日本航空の人材を受け入れる予定であったが、派遣する企業側と、受け入れる当局側とのマッチングがうまく叶わず、今年度の受け入れを見送ったことに伴う減額補正である。

企業側の経営状況による組織体制等も大きく影響している。

ることもあるが、お互いの認識の詰めが甘かったと判断せざるを得ない。この事業については、来年度も予算計上を予定しており、受け入れる側と派遣側の認識を詰めて、事業実施に努め、仙北市の観光事業を盛り上げるためにもご理解願いたい。

抱返り紅葉祭開催費補助

質問 抱返り紅葉祭開催費補助金の減額に伴う受け入れ態勢等について伺う。

答弁 抱返り紅葉祭については、新型コロナウイルス感染症の市内の状況、大仙保健所管内の状況を鑑み、実行委員会として市民の安全を最優先に、また訪れる観光客の皆さんの安全を考慮し、開催は困難であるとの判断に至った。その後、状況は持ち直し、結果的に個人客が多く訪れた。

飲食店・自動販売機等もないことから、10月下旬より集落共有地を利用し、民間の事業者がキッチンカーを持ち込み、飲食の提供が出来たことは、訪れた観光客の皆さんに必要最低限の対応が出来たものと捉えている。

【請願第2号】

「水道管整備に関する請願」

角館東前郷の水道管未整備地区の早期着工について、産業建設常任委員会として、全会一致で採択すべきものとした。本会議においても採択された。

【議員提出議案第13号】

「米価下落に伴う緊急支援対策及び農業施策の充実を求める意見書の提出について」

コロナ禍による外出自粛や飲食店の営業自粛等の影響でコメの在庫量が増大し米価が下落した農家の支援を求める意見書を、産業建設常任委員会全員の発議により本会議に提出し可決された。



■早期着工を望む請願が採択された角館東前郷の水道管未整備地区

第1回臨時議会開催される(令和4年1月21日)

一般会計補正予算(第10号) 補正額 5億4,029万円を可決 累計 230億5,728万円に

1月21日に第1回臨時議会が開催されました。18歳以下の子どもへ現金を給付する子育て世帯への支援や、住民税非課税世帯へ現金を給付する事業費などを盛り込んだ、令和3年度一般会計補正予算(第10号)が審議され、賛成多数で可決されました。なお、第6回定例議会で減額修正された「第三セクター経営改革推進事業費 946万円」が再提案され、本臨時会で可決されました。令和3年度の予算総額が230億円を超えました。

第1回臨時議会における一般会計補正予算(第10号)の内容

子育て世帯への臨時特別給付金給付事業費	1億4,384万円	18歳以下の子どもに10万円を給付する事業の未支給分
住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業費	3億8,699万円	住民税非課税世帯や住民税非課税相当になった世帯に1世帯あたり10万円を支給
第三セクター経営改革推進事業費	946万円	第三セクター4社の統合に向けた実務的な経営コンサルの委託料

- ◆ 18歳以下の子どもへの10万円給付の内、児童手当受給者への未支給分5万円と公務員の子ども及び高校生への10万円支給分と住民税非課税世帯へ10万円支給する補正予算です。財源は、すべて国の補助金です。
- ◆ 第三セクター経営改革推進事業は、今後、三セクの統合に向けて具体的に動き出すことになりました。
- 議員から、従業員に対して今後の雇用をどうするのか早めに説明するべきなどの意見が相次ぎ、当局からは、令和4年度は、三セク4施設とも営業する予定であり、従業員は継続して雇用するが、今後、個々に希望を聞くなどの面談を実施し、他の仕事の斡旋も含めた丁寧な対応をしていく。との説明がありました。

議会広報編集特別委員会の新メンバー紹介



青柳 宗五郎 議員

20年ぶりに議会広報の編集に携わっております。市民の皆さまに分かり易い表現での編集を心掛けたいと思っております。



澤田 雅亮 議員

何もかも初めての経験ですが、判らないことは関係箇所を取材して、自分なりに一生懸命務めさせていただきます。

伊藤邦彦議員 秋田県地方自治功労者表彰を受賞



伊藤邦彦議員は、西木村議会議員及び仙北市市議会議員として、永年にわたり地方自治の発展に寄与した功績を讃えられ、秋田県知事から地方自治功労者として表彰されました。

仙北市議会議員一般選挙の日程(定数16)

※令和4年4月30日任期満了

◇告示 令和4年4月10日(日)
◇投開票 令和4年4月17日(日)

※この選挙から議員の定数が18から16に削減されます。

初議会を終えて感じたことは行政、市政各々の立場、多角的な角度から物事を捉えているという事です。市役所職員、教育委員会など、其々のデータの収集方法があり、何より現場で培ってきた経験を元に分析を行い、新しい施策案を出していく。形としては、私も民間企業で働いてきた経験から、事業の進め方では通じる部分があると感じました。先輩議員の人生経験を踏まえた、市民の声の代弁者として、一般質問で堂々と発言する姿も非常に参考になりました。私は31歳です。すべてに前向きに取り組み、トライアンドエラーを繰り返して、大胆かつ仙北市の為に改革を実践する市議会議員になります。

初議会を終えて 澤田 雅亮

先の仙北市議会議員補欠選挙で初当選した澤田雅亮議員から初めての定例会を終えた感想をいただきました。

編集後記

田口新市長を迎えて初めて行われた12月定例議会。一般質問に対し直球で答弁する姿勢には、多くの議員が好感をもった受け止めたのではないかと。持ち時間を余す議員もいた。議員の発言が聞こえにくいとの声が傍聴者からあった。これには私達も反省が必要である。市民には議会の姿勢を伝え、ご理解いただくことが大切な活動だ。

私達、編集委員による広報の発行も今回を含め2回となった。限られた紙面の中で質問者の真意を伝えることができたのか。又、当局の答弁が適切に伝えていることができ、市民に安心感を持つてもらったことができたのか。毎回反省の繰り返しである。議会の仕事は同調することではなく、しっかりとチェック機能を果たすことである。残された任期は少なくなったが最後まで緊張感を持った姿勢を保ち、その役割を果たさなければと思う。

(荒木田 俊一記)